

idea

CONNECT × CONNECT

Twitter★http://twitter.com/#!/center_i

HP★<http://www.center-i.org>

いちのせき市民活動センターニュースレター アイデア

NEWS LETTER IDEA

JUNE

2012

いちのせき市民活動センター情報誌「idea」は、
NPO・行政・企業の情報発信により、アイデアと
出会いの機会を創ります。

いちのせき市民活動センター

〒021-0881 岩手県一関市大町 4-29

TEL&FAX 0191-26-6400

Email center-i@tempo.ocn.ne.jp

せんまやサテライト

029-0803 岩手県千厩町千厩字町 149

TEL 0191-48-3735 FAX 0191-48-3736

Vol.03



志民のための成長戦略①

「広報ブラッシュアップ講座」

—平成24年5月22日（火）、29日（火）—

市民活動団体のスキルアップを目的として実践技術

を身につける「志民の成長戦略」を5月から開講しました。5月は、広報ブラッシュアップ講座。NPOやPTAなどの活動周知、情報発信に役立ててもらおうと、記事の書き方、写真の撮り方、見出しのつけかたなどを学びました。

講師の岩手日日新聞社記者

菅原祥さん



文章を書く時の3原則

「文書を上手く書くときに必要なコツは、正しく・わかりやすく・速く、の3つを原則とします。」と菅原記者は語ります。「正しく」は文章の中の人名、地名等を間違いないようにすること。記事は記録として今後ずっと残るものなので、間違いは出来るだけあってはなりません。「わかりやすく」は読者が理解できる言葉使いをすること。例えば、記事を読むであろう読者の年齢層を考えた時に、高齢者向けの内容なら、横文字などの片仮名を使った言葉はわかりにくいことがあります。記事の文章を書き始める前に、読者が読みやすくなるような工夫をしましょう。「速く」は情報が古くならな

いううちに、記事にすること。情報は常に変化しやすいものなので、時間を置くとそれが事実ではなくなる可能性があるからです。

文章の構成“結起承転”

記事全体の流れを結・起・承（転）の順に構成することとで、繋ぎがよく、読者にとって読みやすい文章になります。文章初めの“結”にある部分には、記事のテーマについての目付、場所、人数等の基本的な情報を記し、ここで記事の大まかな内容を読者に理解させた後に、スムーズに起承（転）へ流れを運ぶようにします。新聞社の業界では「結」の部分を「リード」と呼び、この部分でいかに読者の心を引き付けられるかが大事です。

上手な写真の撮り方

写真を撮るときは、撮影のために特別に用意したカメラではなく、普段から自分が使い慣れたカメラを使用すると良いとのことでした。また、写真を撮り始める前に、どんな写真を撮りたいか、写真を通じて何を伝えたいかのイメージを固めておくことも必要です。撮影時は、被写体に対して左右両方の視点から撮影し、一枚だけでなく複数枚用意すること。これらのことを踏まえて、グループごとに会場内を撮影する実技も行いました。



この他、テーマに沿った講義だけでなく、菅原記者が今まで書いていて一番面白かった新聞記事は何か、記者になったきっかけはどんなことだったか、などの貴重なお話を聞くことができ、所々冗談も織り交ぜながら終始楽しい雰囲気で行われました。参加した人達は講座を終えて、「もっと時間が欲しかった」、「新聞記事の見方が変わった」、「とても良い勉強になった」などの好評な意見や感想を多くいただくことができました。ご参加して下さったお客様、講師をして下さった菅原さん、たいへんお疲れ様でした。




- 2 | 志民のための成長戦略①
「広報ブラッシュアップ講座」
- 4 | 地域コミュニティの活動紹介
室根12区自治会
- 5 | 企業の地域づくり
ニッコー・ファインメック株式会社
- 6 | 団体紹介
特定非営利活動法人
レスパイトハウス・ハンズ
- 7 | 歩が行く-スタッフの体験レポート-
陸前高田まちづくり協働センター
- 8 | 7月のイベント・ボランティア情報

一関市内のNPO 法人
市内31法人が活動中です。

- 1 藤沢町ボランティアセンター
 - 2 北上川流域河川生態系保全協会
 - 3 ケアセンターいこい
 - 4 須川の自然を考える会
 - 5 レスパイトハウス・ハンズ
 - 6 一関文化会議所
 - 7 一関ケアセンター
 - 8 ワークハウス雲
 - 9 里山自然学校 はずみの里
 - 10 全国地域学習振興会
 - 11 北上川サポート協会
 - 12 グリーンハート
 - 13 いわい地域支援センター
 - 14 アートで明るく生きるかわさき
 - 15 障害者への偏見と差別をなくす会
 - 16 サン・スマイル
 - 17 ねこの手クラブ
 - 18 いわてコミュニティファンド
 - 19 千厩まちかどケアセンター
 - 20 いわて発達障がいサポートセンターええ町づくり隊
 - 21 いちのせき子育てネット
 - 22 響生
 - 23 わかば会
 - 24 防災サポートいちのせき
 - 25 とーばんふうどくらぶ
 - 26 生涯支援センター岩手 日向ぼっこ
 - 27 あゆみ
 - 28 子育て支援いっすね
 - 29 ファンスポルト一関
 - 30 北上川流域連携交流会
 - 31 グローバルヒューマン
- (認証順で掲載しています)

6月の表紙

まち歩きをしている時に、室根山にある室根神社で撮影したものです。にっこりとした笑顔がとても愛らしく、つい写真に収めてきてしまいました。神社では皆の幸せを祈願してきました。



いちのせき市民活動センターニュースレターideaは、市民活動がアイデアを持ってNPOと行政や企業、市民との出会いの機会を創りだすことを目的とした情報誌です。センター情報をはじめ管内の市民活動団体情報や行政情報をお届けします。

室根 12 区自治会

— 時代の流れとニーズに対応する地域 —

自治会長 三浦幹夫 様



地域 コミュニティの 活動紹介

一関市室根町には、四季折々の景色で私たちを楽しませてくれる室根山があります。今回はその室根から、自治会活動が楽しく参加できるような様々な工夫と、取り組みを行なっている、第12区自治会取材しました。

地域を支える人々

同自治会は、世帯数91戸・人口360人の地区で、自治会組織は7部編成。総務▽生活環境▽体育▽文化▽産業▽防災▽福祉部とある。4年前に設けた防災部では矢越駅からの山道が暗くて危険であるという地域からの声で、実際歩き、どこが危険かを調査。自治会独自で防犯灯の設置をするなどの活動を行なったほか、同自治会が管理している「ひこばえの森交流センター」が昨年から避難所として指定され、防災設備管理や消防署と連携した消火活動・救命活動等の専門的役割を行なっている。また、宴会等の後片付け役になっていた婦人部を廃止し福祉部を設けたことにより、機転が利く女性たちが、福祉活動のスキルアップ研修等を行うことで、高齢者のサポート役として活躍している。

どの部にいたっても子どもからお年寄りまで参加出来るよう自治会行事の企画・提案を率先して行ない、部員たちも楽しんで活動している様子が伺えた。

地域の心の変化

今では、組織が定着し異年代が協力し合える同自治会であるが、「ここまでの道のりは決して平坦ではなかった」と、三浦さんは振り返る。

10年前、地区の若者から「自治会は毎年同じことばかりで何も変わらない」と不平不満がでた。自治会のマンネリ化による若者離れの危機感をもった当時の役員は、高校生以上の全地区民にアンケートを実施。「いい場所だが不便だ」「生まれ育ったこの地区は好きだが暗くて怖い」「遊ぶ場所がない」など、いろいろな課題が浮き彫りとなった。このままで終わらせたくはないと、三浦さんは地区内で「地域づくり委員会」を立ち上げた。同委員会のメンバーは無作為に23名を選出。今まで自治会活動に参加してきていない人や若者など多種多様な立場や年齢層の意見を聞くことで、色々な角度から物事をみ

る事ができた。毎月1回の会議では、テーマを一つに絞り一年かけて自治会再生への取り組みを行なった。

同地区は「森は海の恋人」植樹祭会場として全国的に有名ですが、平成元年に100人程の参加から始まった同イベントは、今年で24回目を迎え過去最高の1350人の参加となった。「積み重ねという実績が、住民同志の絆となり心の変化となった。イベントだけでなく地域そのものが宝だ」と熱く語った。

人を育てる

現在、住民のスキルアップのため、ひこばえマイスター制度を思案中とのこと。自分たちの地域を知り、良いところが伝えられていくように、地元学を学び研修していく。「地域を知り大切にしてくれる人達が増えたら安心できるね」と三浦さんの笑顔は優しさで包まれていました。

変わりゆく時代、自治会にとって大切なことは「目的意識」。目的があるからこそ、課題が見え解決へとつながるのではないかと感じました。また、常に進歩する気持も大事であると感じました。

～地域への感謝をいつも心に～

ニッコー・ファインメック株式会社

代表取締役副社長

総務部長 小野寺真澄 様

(手前 右側)

生産管理部 次長 佐藤崇 様

(手前 左側)



※アドプト制度・・・行政と市民が二人三脚で協力しあい進める清掃美化活動の事。

企業の 地域づくり

企業の地域づくり活動取材二回目は、ニッコー・ファインメック株式会社へお邪魔し代表取締役副社長兼総務部長の小野寺さんと生産管理部次長の佐藤さんにお話を伺いました。

地域の皆様に支えられて

緑豊かな一関市千厩町の奥玉地区。近くには川が流れ、手入れの行き届いた田んぼや畑が広がります。その山あいにニッコー・ファインメック株式会社があります。ここは、産業廃棄物等の処理業を営み、宝飾品の加工及び販売も行なっています。「あの煙突から出ているのは煙ではありません。害のない水蒸気です。それを地域の皆様に知って頂ける機会があり、ありがたく思います。」そう語るのには、生産管理部次長の佐藤さん。産業廃棄物処理という仕事ゆえ、「あの工場では一体何をしているのだろうか?」「あのトラックには何が積み込まれてきているのだろうか?」「と地域住民から不安な声も寄せられたこともありました。年に1回、地域住民に向け業務内容や環境影響、環境活動の説明会を実施し、企業側

からの情報発信だけでなく、住民の皆様から意見をいただくことで改善する機会を得るなど、地域住民とのコミュニケーションを大切にしていきます。

同社では、4名の環境管理委員会を設置。環境保全活動の事業計画は各部から十数名が集まり活動の決定を行なっているということです。

四季折々の景観が望める

「憩いの森」

平成19年5月に完成した「憩いの森」。工場入り口に建立された東屋と五重塔は地域の木工さんで同社社長の知人でもある方の手作りとのこと。現在は一関百景にも認定されています。この「憩いの森」は、従業員が素晴らしい景観や自然を大切にするとというテーマがあるほか、子どもからご年配の方など、地域の方々の憩いの場としても利用されています。

感謝の気持を込めて

地元住民の交流の場ともなっている「千厩おくとたま親水公園」。同社は平成19年9月に一関市との※ア

ドプト協定を調印して以来、同公園の整備管理として年3回のクリーン活動を実施しています。

クリーン活動では、全従業員約60名が「出番がきたぞ!」という思いで積極的に参加し、公園の草刈りやゴミ拾いのほか、「憩いの森」維持管理及び地域周辺のカーブミラー清掃など、地域の皆様が気持ちよく過ごせるようにという思いで、社員一丸となり公園等の維持管理活動を行なっているほか、個々の環境保護に対する意識も高まっているということです。

会社見学はいつでも

対応いたします

同社では、地域住民への感謝イベントのほか、中学校や養護学校などの職場見学も行なっており、団体でも個人でも会社見学が可能だそうです。希望の場合は、直接、同社総務部へお申し込みいただくか、岩手県環境学習応援隊へ申込を行って欲しいとのこと。「機会があれば私たちが地域のイベントに参加していきたい」と副社長の小野寺さんは今後の活動目標を語っていました。

特定非営利活動法人

レスパイトハウス・ハンズ

団体
紹介

～基本情報～

◆事務所

〒021-0031 一関青葉2丁目6-16

TEL : 0191-31-5720 FAX : 0191-31-5721

E-mail : hands@guitar.ocn.ne.jp

ホームページ <http://hands-iwate.org/>



なごみアートの作業風景

しょうがいを持つ方々とその家族が、
地域で豊かに安心して暮らせるための支援を。

一人ひとりに
合った支援を

指で描く

「なごみアート」

レスパイトハウス・ハンズは、障がいをもつ人の生活支援を目的として運営しているNPO法人です。一人ひとりの個性の支援、ご家族のための支援、リーズナブルな支援の3つを柱として、平成13年に法人を設立。

障害福祉事業は、現在一関

市内3か所で実施しており、

これら事業所の利用者は、健

常者よりも自分の気持ちを言

葉で表したり、相手の気持ち

を理解することが難しいこと

があります。そのため、何か

を伝えたいときは、言葉だけ

でなく表情や肢体を使うなど

全身で気持ちを表現したり、

相手の小さな表情の変化から

気持ちを読み取ります。こう

いったコミュニケーションは

楽しく、また、理解しようと

する姿勢が大切だということ

でした。

普段は、事業所内で内職や料理をしたり、外に出て買い物をしたり、お祭りを見に行ったりしています。また6月1日には、秋田県からなごみアートの高橋みどり先生が事業所を訪れて教室を開き、本部にいる利用者全員がアートを体験。

パステルクレヨンを金網に

擦り付け、粉末状にしたもの

を画用紙の表面に落とし、指

で優しく広げ伸ばすと、ふん

わりとしたグラデーションが

描けます。その上にさらに色

を重ねたり、色鉛筆や型を使

い、模様を描いたりと自由に

アレンジを加えて完成。それ

ぞれが描いた作品を見ている

と、どれも心が和み、自然と

温かい気持ちにしてくれます。

自分の作品を完成させた利

用者さん達は、「かわいく描け

たよ」と互いに笑顔で見せ合

いながら、それぞれの作品を喜んで
いる様子でした。このように、
レスパイトハウス・ハンズでは、
常日頃から外部の人との交流を
行っております。

いつまでも

初心のまま

代表の小野さんは、「人は、一人一人考え方や感じ方が違います。環境や習慣もそれぞれ違います。誰にでも同じ援助をするのではなく、一人一人の望むことや必要としていることを理解して、個人に合わせた援助を行うことが大切です。」と語ります。

取材に応じてくれた職員の手
葉さんは、「日々、優しいスタッ
フに支えられながら毎日楽しく
働いております。設立当時の初心
をいつまでも忘れず、これからも
利用者のニーズに細かく答え役
立ってゆきたい。」と、笑顔で話
してくれました。

歩が行く

センタースタッフの千葉歩の体験レポートです。



今月は、一関市から飛び出しお隣、陸前高田市の「陸前高田まちづくり協働センター」をご紹介します。

事務所正面



同センターは、いちのせき市民活動センターのノウハウを移転を行い、復興に向けて住民が信頼関係を繋がり、陸前高田らしい地域づくりを進めるための支援をおこなっています。市民活動や地域づくりの相談窓口を設置し助成金情報や、地域の情報なども知ることが出来ます。

さらに、かつてのような会場所やコミュニティセンターなどが被災し、人が集まる場が少なくなったため、事務所内にある会議スペースを地域の方へ無料で提供しています。

休館日は原則、日曜・祝日ですが事前に予約をすれば、閉館日も利用可能。

明るいスタッフが常勤しておりますので、お近くにお越しの際は、ぜひお立ち寄りください。



会議スペース

商店街を歩く

同センターが設置されている「高田大隅つどいの丘商店街」は6月2日にグランドオープンし、二日間のオープニングイベントでは1200人のお客様で賑わったとのこと。同商店街は、プレハブ3棟に飲食店を中心として、学習塾、エステサロンなどの13事業所・団体が入居。子どもからお年寄りまでが集う憩いの場となっています。



ほっと一息

ビーチ・テ・カフェにお邪魔しました。ここは、軽食と駄菓子屋のお店で大人には懐かし駄菓子がいっぱいです。店内にはゲームセンターもあり子どもから大人まで楽しめます。ソフトクリームの種類も充実。どれを食べようか迷ってしまいます。



おやこの笑顔がきらり

おやこの広場きらりんきつずは、未就学のお子さんと保護者のみなさんがほっと一息つける場所。お子様の遊び道具

も充実。ママ友の情報交換や集いの場所として最適です。もちろんパパも大歓迎です。



お腹が空いたなら・・・

カフェフードバーわいわい。日替わりランチメニューがあります。こちらでランチをいただきました。食べる前に写真を撮ろうと思っていたのですが、目の前に出された美味しそうなハンバーグにお腹がグーグーなり、写真を撮る前にペロリと食べてしまいました。

写真外観 ↓ ↓ ↓



ちなみに、気になるメニュー「なっちく」さて問題…なっちくとはどんな食べ物でしょうか？

答えは、ちくわの中に納豆を詰めたフライです。うーん。なっちく!!

一度きりでは全部の紹介は出来ませんでした・・・次回機会がありましたらまたご紹介いたします。



イベント・ボランティア情報



いちのせき市民活動センターでは、一関市内で活動する市民活動団体や企業で行うイベントの情報やボランティア募集の情報をお待ちしております。

TEL & FAX 0191-26-6400 ☒ center-i@tempo.ocn.ne.jp



ホテル観察会

NPO法人北上川サポート協会では、風呂川に生息するホテルの観察会を行います。当日は、紙芝居や塗り絵もあります。

日時：平成24年6月30日(土)
& 7月7日(土)

集合時間：午後6時30分

場所：風呂川

集合場所：農村研修センター

参加料：無料

持物：色えんぴつ、クレヨン

※小中学生は保護者同伴でご参加ください。雨の場合は中止となります。

電話：0191-36-5666



将来のケアマネージャー育成

NPO法人わかば会では、将来のケアマネージャー育成のために講座を開きます。試験合格までをしっかりとサポートします。

日時：平成24年7月1日
～2012年12月20日

場所：山目教室・平泉教室

料金：Aコース 105,000円

[やさしく教えてもらえるコース]

Bコース 52,500円

「きびしく教えます！コース」

詳しくは、下記事務局まで連絡下さい。

電話：0191-26-1360

(受付時間9時～16時)

NPO法人わかば会/担当 鈴木



災害遺児支援のお願い

グリーンハートでは、陸前高田市の少年と石巻市の少女のサポートを引き受けております。この度、ベルギーに招待され、7月20日～30日にホームステイを予定しております。そのため、募金を募っております。詳しくは下記の電話番号まで。

<募金の使途>

- ・旅行準備金
- ・ホームステイ先へのお土産
- ・旅行者のお小遣い
- ・自宅―仙台空港までの交通費

電話：090-8780-9018

NPO法人グリーンハート/担当 高橋



まさかのときの生き残り塾 in いちのせき

南イーハトーヴ自然学校では、災害時を想定し、身近にあるものを使って人が生き抜くための最低限必要な「食べる」こと、「寝る」ことに焦点を置き、抜粋したワークを体験するものです。

日時：平成24年7月8日(日)

「太陽光エネルギーで調理する」

(※切：6月29日) 料金 800円

平成24年8月12日(日)

「ブルーシートでテントをたてる」

(※切：8月3日) 料金 1,800円

場所：北上川学習交流館あいぽーと

定員：各回とも30名

持物：雨具・タオル・飲み物・お弁当

電話：0191-21-1255



川の絵コンテスト

NPO法人北上川サポート協会では、川に関心を持ち、大切にすることを目的に、地域に流れる「川」を自由に描いた「川の絵」を募集しています。参加者全員に参加賞を贈呈する予定です。

応募対象：一関市内の小中学生、一般

※切：平成24年7月13日(金)

宛先：NPO法人北上川サポート協会

(〒029-0202 一関市川崎町薄衣字如来地100番地1)

電話：0191-36-5666

用紙：B4(257mm×364mm)

画材：自由



Eボート体験乗船

NPO法人北上川サポート協会では、北上川流域交流Eボート大会プレイベントとして、Eボート体験乗船を行います。

日時：平成24年7月15日(日)

午前9時～午後12時

場所：北上大橋付近の北上川

対象：小学5年生以上で構成するチーム
(1チーム=10名)

※1名での参加も受け付けます!

料金：無料

定員：20チーム

申し込み：7月8日(日)まで

担当：北上川サポート協会

電話：0191-36-5666



ガールズキャンプ in まつるべ

南イーハトーヴ自然学校では、女性限定のアウトドアイベントを企画しています。キャンプやアウトドアが初めての方でも大丈夫、親切なスタッフが完全サポートします。

日時：平成24年7月21日(土)
～22日(日)

場所：いちのせき健康の森

セミナーハウス

料金：4800円(大人一人につき)

2000円(お子さま一人につき)

申し込み：7月13日(金)まで

電話：0191-21-1255

南イーハトーヴ自然学校 担当/武田



天体王に俺はなるっ!!

南イーハトーヴ自然学校では、「天体王に俺はなるっ!!」～アルビレオからのメッセージを受け取れ～と題し、プロジェクト★TENTAIOU(小学校4～6年生を対象とした野外活動研修)を行います。

日時：平成24年7月31日(火)

～8月2日(木)

場所：いちのせき健康の森

及び栗駒山周辺

対象：小学校4～6年生 20名

料金：6000円

申し込み：7月20日(金)まで

電話：0191-21-1255

南イーハトーヴ自然学校 担当/武田



映画上映会 上映会場募集

おふいす たんぼぼのゆめでは、「病気や障害は大切だということ、みんな違ってみんなが大切だということ」を伝える無料ドキュメンタリー映画「1/4の奇跡」の上映会を希望する団体と会場を募集しています。

主催：おふいす たんぼぼのゆめ

時間：100分

電話：090-5231-4333

内容：ドキュメンタリー映画

担当：吉田

電話：090-5231-4333